



THE ROTARY CLUB OF TOKYO NEW-SOUTH

Weekly Report 東京新南ロータリークラブ週報

Build The Future with Action and Vision

築け未来を行動力と先見の眼で

1996~97年度・国際ロータリーのテーマ/ルイス・ピセンテ・ジアイ会長

◎本日の例会

11月15日/第487回例会

◎卓話「ロータリー財団寄付金のマネーフローについて」

足利東ロータリークラブ会員

87~88年度2550地区ガバナー

92~94年度日本全区ロータリー財団コーディネーター

板橋敏雄氏

◎先週報告

11月8日/第486回例会

◎会長報告 クラブ細則が変わり、新会員のカウンセラーをお願いすることになりました。牧野吉郎会員のカウンセラーとして保森登会員、宮川弘信会員のカウンセラーとして四分一勝会員、谷義一会員のカウンセラーとして山川政樹会員へそれぞれ委嘱状をお渡しします。

◎幹事報告 ①12月13日(金)のガバナー公式訪問の当日は全員出席をお願いします。第3回クラブ協議会の開会は例会前10時30分です。時間の繰り合わせをお願いします。なお、協議会のテーマは、「創立の原点を見つめて——過去を振り返り、未来を築こう——職業奉仕を通して」です。②96~97 R全国会員名簿にもれていたページがありました。追加ページを配布しますのでつけ加えてご利用下さい。

◎出席委員会報告(後藤委員長) 10月は出席率の向上に、メイキャップのお願いをしていますが、IMもあり、91.47%と90%を超えました。本日欠席の方にもお願いしたい事ですが、今月も90%を超えるようにメイキャップをお願い致します。

◎慶事披露 ●誕生日祝/坂本 實君(11月9日)

◎出席報告 ●会員68名・出席48名・欠席20名(出席規定免除者2名)

ビジター(6名 敬称略・順不同)/矢島萬平(摂津RC)、椎津忠三(東京中央RC)、竹下浩二(東京芝RC)、小見山了一、竹内弘、子安敏三(以上、東京南RC)



順不同・敬称略

11月8日/18件51,560円

本年度累計 991,636円

多額のご寄付を

有難うございました。

清原元輔/USAに2週間出張していました。小湊雅亮/風邪が流行だして来ました。お大事に。河原勢自/武下さんに強制されたものではありません。青野親睦委員長のニコニコに関する広報にこたえます。小杉真史/火曜会柴本さん貴重な体験談有難うございました。山下忠治/週報の先週号に号数と月日のミスがありました。深くお詫び申し上げます。伊部和夫/河原さん誕生日祝のメッセージ、相沢さん写真を有難うございました。入沢頼二/荒木さん、川鍋さんはじめ皆様にお世話になりました。柴田陽三/欠席が続きましたが、一昨日シンガポールでメイキャップして来ました。あちらも活動が盛んです。親睦委員会/親睦ゴルフ会の会費余剰分です。ご参加の皆様より。青野信次/火曜会、職業奉仕委員会欠席しました。申し訳ございません。宮本正祥/武下さんの顔を見てごく自然に…。加藤昌明/パッチを忘れました。柴藤清三郎/京都が紅葉の季節になり、賑わっております。関 征春/荒木さん、川鍋さんお世話さまでした。谷 義一/2週間ぶりに2週連続出席することができました。川鍋二郎/荒木さん先日はありがとうございました。本日は途中で失礼致します。牧野吉郎/二回休みましたので。武下 朗/「ニコニコ」ご協力ありがとうございました。

◎ロータリー財団月間にちなんで

R財団副委員長 柴藤 清三郎

今年度は財団創立80年、ポールハリス没後50年、国際親善奨学金発足50年の記念すべき年度に当る。財団は1917年にRI第6代会長アーチ・C・クランプ氏が「全世界的な規模で、社会奉仕の分野で何かよいことをするためのロータリーの基金を作ろう」と提唱され、設立された。しかし、1930~40年代は寄附は全く集らず、財団は停滞を余儀なくされた。これは世界恐慌や大戦の影響もさることながら、当時は社会奉仕を志向するロータリアンの心に訴えるプログラムがなかったためでもあるといわれる。のち、1947年にポールハリス氏が逝去され、その功績をたたえて記念基金が設けられたが、反響は大きく、直ちに130万ドル以上の寄附が集った。そこで財団はこの基金を永年の夢であった継続的な国際奉仕プログラムの実現に当てることとし、同年中に国際親善奨学金が設けられ、世界17ヶ国から18人の留学生が選ばれた。丁度、大戦が終り、世界の人々が仲よく連帯する機運が生まれて来た時に当り、世界理解と平和増進のためのこのプログラムは、ロータリーの目標と理想をかなえるものとしてロータリアンの心をとりえるところとなり、その後の財団の発展をうながす原動力となったのである。これは財団にとっていかにプログラムが大切かを示している。今日、財団は、クラブと地区が力を合わせ、個人やクラブや地区レベルでは不可能な大規模な奉仕活動を実施する機会を提供すると共に、「財団への財政的支援とプログラムへの参加」の両面において、クラブと地区に自主的な参加を求めている。財団月間に当り、以上のような歴史をご理解いただき、ご支援をお願いしたい。

(10月29日 RI第2750地区 財団委員会より)

「会 員 増 強」

委 員 村 川 優

ロータリークラブに魅力があれば、本来なれば門前市をなして、吾れも吾れもと集って来るものであろう。私はこのクラブは良いし有難いと思って、良いクラブだから入会しませんかと言っています。しかし出席がきびしいとか、入会後会のために費やす時間とかいろいろのお金も必要なことが障害になっているかも知れないが、それにもまして良いところが多いことを強調して、あなたが入って良かったと思う面を話しながら会員増強に努めて頂きたい。

副委員長 入 沢 頼 二

会員増加率の低迷は不況も大きな要因の一つと云われていますが、ロータリー活動発足の1905年シカゴは極度の大不況で、思いやりや助け合い、職業を通して奉仕を旨としたもので、本来不況の中にこそ、ロータリー活動の真骨頂が発揮されるはずのものと思う。兎も角クラブの老化を防ぐためにも、新しい活力を注入するためにも増強がクラブの発展、活性化に欠かすことの出来ない最重要課題でありますことは今や自明の理であります。会員増強はクラブ役員や増強委員だけの仕事ではなく、全会員の分担すべきことと再認識していただきたい。増強に成功している大多数のクラブでは、クラブ内にクラブ委員会とは別に「会員増強推進チーム」を別に作り定期的に会合を開催していると聞いております。個々の会員の自主性によることも大切だが、会員参加意識を高め、増強を推進してゆくには何かそのような仕掛けが必要ではないかと思っております。

委員長 馬 場 一 廣

会員増強セミナー(10.10運動)——会員増強は会が存在し、これを維持し発展させるためには当然為さねばならないことであって、このことには誰も異論はないだろうし、今年度に入って2名減、増なしの当クラブの現状を考えれば、事態は深刻であることも争いのないところであろう。

そこで、どのような方法で増強活動を行うかが問題であろうと思うが、つぎの2つが挙げられよう。

1. 会員各人の自発的な推薦、紹介に期待する。
2. 小グループのチームを作って、チームのパワーによって増強の実を挙げる。

本セミナーにおいては、先般会員増強委員会で討議の結果もふまえ、上記2の方法によって残り少い上半期と下半期に会員増強の実を挙げようとするものである。クラブ創立10周年に因み、10人増強することを目的とするテン、テン運動のスタートである。

「創立10周年準備」

祝典委員長 渡 邊 治

10周年記念行事まであと1カ月足らず、準備もいよいよ最終段階に入りました。祝典関係行事について最近の状況を説明させていただきます。参加人員総数は165人を予定。当クラブ会員60名、同夫人50名を期待しております。外部の方々への招待状、案内状はすべて10月下旬に発送済です。目下出欠状況を集計中です。第一部式典の部のメイン・イベントは二つ。一つは記念事業の発表、他は田辺会員による記念卓話「10年目の初心」です。第二部祝宴の部はぐっとなごやかなものになり、その中心は岡村喬生氏のコンサート「歌の旅世界を巡る」と云えましょう。忘れてならないのはコンサート後のdinnerです。村川実行委員長のご尽力により素晴らしい正餐が用意される筈です。最後をお願いを二つ。普段の忘年会時を超えたご夫婦のご参加を是非お願いいたします。また祝典委員会の各グループのメンバー各位はこれからの準備活動に積極的にご参加いただき、全員参加からくる親睦の効果を併せ実現していただきたいと思ひます。

◎11月火曜会報告

本年度第5回火曜会が11月5日23名の参加で、全日空ホテル37階アストラルで開催されました。第7代会長柴本芳郎会員の「三つの極限、死に直面」という演題で大変興味深く、皆さん真剣に拝聴しておりました。内容は(1)柔道、(2)戦争、(3)飛行機という局面で、生死の境界線を三度さまよった体験談でありました。

(1)柔道：灘中学時代三段という腕前で、天覧試合時相手方に首を締められて息が止まり、柔道用語で「落ちる」場面で2分以内に「喝」を入れられ蘇生し、その際綺麗な虹を見た。

(2)戦争：熊本で特攻基地を守る任務の時、グラマン、ノースウエスト等の機関銃の掃射を浴び、横、縦どちらに伏せれば良いのか咄嗟の判断で、縦に臥せた。弾が戦闘帽を突き抜け気絶した。その際はっきり虹を見たのを覚えている。近くの防空壕へ入っていた人も一つの弾で2人も死んだ。凄まじい光景であった。

(3)飛行機：伊藤忠商事時代、アフリカ中近東へ日本の商品を売り込みに長期出張したとき(S.35)BC3、21人乗り、霧のため視界ゼロでエチオピアの高地を飛行中に燃料切れとなり、3時間以上漂流した後滑走して草原に不時着した。ジェット機と違いプロペラ機であったので助かった。この時虹は見なかったが死を覚悟した。

以上の三つの極限から「過去を悔やまず、未来を憂えず、現在を大切に生きていこう」という結論を出し、自然体に生きることが会得されたそうです。尊い体験のお話なので、迫力があり示唆にとんだ結構な火曜会でした。(小杉記)

◎次週予告

11月22日/第488回例会

◎卓話予定

イニシエーションスピーチ

「It's a small world」

当クラブ会員、谷・阿部特許事務所 所長 谷 義 一 君

東京新南ロータリークラブ

会長：河原勢自 副会長：保森 登 幹事：荒木昭文

〒107 東京都港区赤坂2-19-8 赤坂2丁目アネックス3階

TEL.03-3505-5976 FAX.03-3505-6004

例会日●毎週金曜日 12時30分

例会場●東京全日空ホテル 〒107 東京都港区赤坂1-12-33 TEL.03-3505-1111

〈会報委員〉

山下 忠治、大村 富俊、伊部 和夫、
大日方 真、柴藤清三郎、相澤 成憲、
島田 昌雄、村山 公士、川鍋 二郎、
関 征春、宮本 正祥、岩瀬 秀郎

(編集担当順)